

【1 分解説】日本語教育の参照枠とは？

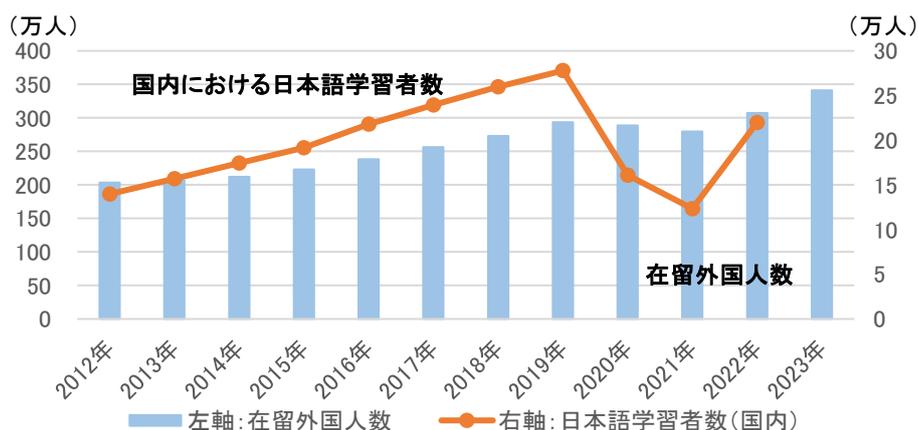
総合調査部 政策調査グループ 次長 宍戸 美佳

「日本語教育の参照枠」（以下、参照枠）は、日本語教育に関わる全ての人が参照できる日本語の学習・教授・評価のための包括的な枠組みで、「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」を参考に開発されました。日本語を学ぶ方々が国や地域を越えて移動しても学習を継続し、国内外共通の指標で日本語能力を把握できるようにするため、文化庁によって2021年10月に公表されました。日本語能力の熟達度を基礎段階のA1から熟達段階のC2まで、6つのレベルで表します。

近年、在留外国人の増加や在留資格・理由の多様化に伴い、生活や留学、就労など目的に応じて求められる日本語教育の内容も大きく変化しています。一方、日本語教育の内容やレベル、評価に関する共通指標がなく、教育機関や試験団体が独自の指標や基準を使用してきたため、国内外の教育機関の連携が図りにくく、在留資格や進学、就職の要件として日本語能力を示す上でも課題がありました。これが開発の背景です。

参照枠の公表を踏まえ、例えば在留資格「留学」で求められる日本語能力は参照枠A2相当以上となり、このレベルに対応することが検証された10試験を申請に利用できるなど、活用も進められています。日本語教育の質の向上に加えて、参照枠の活用が進むことで、日本語や日本の魅力がより多くの人に伝わることを期待されます。

資料 在留外国人数および国内における日本語学習者数の推移



(出所)出入国在留管理庁「在留外国人統計」、文化庁「日本語教育実態調査報告書」より第一生命経済研究所作成